

校長室より

二松学舎大学附属高等学校

校長 鶴飼敦之

「二松から飛翔へ」

先生方の学び

校舎を見て回り、教室を覗くと中間試験の答案返却が行われていました。2年生は修学旅行の関係でちょうどこのタイミングになったようでした。「結果は？」との問いかけに、目が合い、にっこりと微笑み返しをしてくれました。自分の予想通りの結果だったとのこと。それが果たして高得点だったのか否かは聞きませんでした…。

生徒諸君が頑張っているの、先生方の学びについても紹介しましょう。先生方は教員として日頃から「研修」＝「研究と修養」に努めています。

例えば、社会科担当の先生方は、夏季休業期間中に民間予備校の教員向けの講習会に参加していました。新しい科目、例えば『歴史総合』などを担当するにあたり、教科の中味はもとより指導法などを研究しています。

体育科の先生は、「GPS データから見えるフィジカルトレーニングの改善と方法」と題したセミナーに参加して、本校生徒の基礎体力不足の克服をまとめたり、指導者ライセンス養成講習会に参加したりして、「授業や部活動に活かします」と報告しています。

数学科の先生は、理数系教科研究会主催の「講演会・情報交換会」で学習指導要領改定に伴う大学入試の変化に対応していくための数学の指導法を研究していました。

いずれも他の先生方の参考になるよう報告書をまとめてくれています。

さらに英語科の先生は、ご近所の千代田区立九段中等教育学校で開催された東京都教育委員会主催の研修会に参加され、「教授法などを学んできました」との報告がありました。

このように個々の先生方がそれぞれの学びを実践していますし、研究図書を購入し、自己研鑽に努めている先生方も大勢います。さらに、全体では、職員会議で教職員の服務（生徒への体罰や不適切な言動など）について、都の教職員の実態を共有し、襟を糺すための校内プッチ研修を行うなど日々、研修に努めています。

先生方も生徒と同様（否、指導するためにそれ以上）、忙しさの中にもそれぞれの課題を持って主体的に学んでいることを知ってもらえましたか。現在、ICTやオンラインの活用によって、研修の形も様々になっています。これからの求められる二松の学校像として「常に学び続ける先生がいる学校」でありたいと思います。このようなOff J Tも重要ですが、日々の業務の中で教員の協働性を生かしたO J Tも今後、重視していきたいと思ひます。



地球環境の変化 ?



霜月に入りました。朝晩はめっきり冷え込んできました。つい先日「秋らしくなってきました」と伝えたばかりですが、暦の上では間もなく立冬。秋が短くなり夏から冬への転換が早まりつつあるようです。

11月からは制服も衣替え、冬支度を急いでする必要がありますが、動物も同様です。最近、熊出没のニュースが盛んに報道されています。東京の町田市！！でも熊の日撃情報がニュースになっていました。冬眠を控えて山にドングリなどの食料が不足するため人里に降りてきたようです。これも地球環境の変化です。温暖化により以前とは違った環境に一番左右されるのは野生の動物たちでしょう。

ところで、寒くなるとついつい、口も重たくなるものです。朝の挨拶で「おはよう」と声を発してくれる人が減っている気がします。“コクリ”の挨拶もいけれど、口を開けて挨拶するのもいいものですよ。こここのところコンスタントに”おはようカウンター”は500台を超え、昨日(10/31)は“630”で記録を更新しました。

寒さに負けずに今日も挨拶で気持ちの良い一日をスタートさせましょう。

